

〔京極大雙紙〕食物之式法之事

一さんばの事 總而さんばは取事はうなれども先れうじに執べからず總而ばうれいの手向と多分思也暫思慮あるべし祝言の雜しやうには取べからず

〔小笠原流禮儀書〕喰初之次第

一膳の様體は食の上に生飯をちいさくほうしゆのなりににぎりて置常の如く膳を居るを養人箸にて生飯をとり手元の角皿のきはに置て扱食をそと三箸く、め汁をもく、めるなり但品ばかりなり其所肝要なり

〔配酌之法用〕食物作法

生飯取様の事 式の始の時は生飯土器有其上へ供するなり是飯食を作る神へ祭なり又法事佛事の時は羅せつきしもへ供する也是は佛家ニ而生飯のもんを唱へ様々の作法有といえども俗人は只生飯取たるまでにて可然大形は不及取

〔陪膳記〕一貴人等の御前にも飯のさばをば取可申哉之事大略はとられ候

〔禮容筆粹〕^五喰初之事

男女ともに生れて百廿日めにならず喰初の祝儀有べし喰初の親を定め男子をば男やしな^い女子をば女やしなふ也其様體乳母兒をいだし出候を喰初の親うけ取左の膝に置候時膳をすゆるやしなふ人飯の祭飯^{さば}をとりて飯の向ふの隅に置其後三はしく、め汁をく、むる體あるべし^{○下}

〔式正秘傳書〕一眞饗膳獻立^{○中}

御饗膳 本^食ノ^上ノ^サバ^三ツ^ハ三^光ヲ^表ス^食盛^形ニ^上丸^キ内^ニ少^トガ^リタル^ハ厨^ノ食^丸

〔伊呂波字類抄〕^止屯食